石巻専修大学特集
「石巻専修大学」ホームページ http://www.isenshu-u.ac.jp
代表電話番号 0225(22)7711

実践的教育を重視　3学部体制に

地域社会支え創立25年

今年創立25年を迎えた石巻専修大学は、少人数教育体制の下、実験・実習科目を重視し、石巻地域の人的・物的資源を活用した実践的教育を行っている。その蓄積によって、学生一人ひとりの想像力、行動力、判断力が育まれ、経験したことのない状況にも適切に対処する力が養成される。理工学部、経営学部に加えて人間学部が誕生し、3学部体制となった石巻専修大学が目指す大学像、学生像を坂田隆学長にお聞きした。また3学部の学部長に各学部の魅力を伺った。

坂田　隆　学長

行動する教員・成長する学生
「人」を見いだす対面授業

本学は、理工学部で科学と技術、経営学部では社会科学分野の教育に尽力してきました。

新設の人間学部は、文化、社会、教育という新しい学問領域に踏み込みます。さらに理工学部に食環境学科、生物科学科を新設して、経営学部は来年度から地域活性に力点を置くコースを増やします。

これらは地元の自治体や教育関係者、各界で活躍する卒業生との意見交換で出された「石巻出身の小学校の先生を」「食品工業など地元の基幹産業を支える技術者を」「自然環境の値打ちを説明できる人を」といった人材育成の要請に応えるものです。学部間で関連し合う事項が多く、相互履修が徐々に増えていきます。

これらの課題は一昨年「3・11」の東日本大震災後に際立ちましたが、着想は震災以前からありました。石巻地域が抱えていた産業空洞化、少子高齢化などの問題に対処するものです。

4月から本学で始まった、ボランティア団体のリーダーから話を聞く講座「復興ボランティア学」で、「今の石巻の状況は全国の数十年後の姿だ。ここでしっかり検証すれば石巻は全国のお手本になる」と提言されました。私たちはそういう場にいるのです。

「3・11」を機に、私たちは大規模な〝実験〟をやっています。それは新しい高等教育のあり方の開発につながるものです。

教員が復興現場へ飛び出す、機械工学の専門家が沈みにくい車の開発のために調査に行く、ベンチャービジネスの研究者が仮設住宅で聞き取りをする、マーケティングの研究者が在宅被災者に寄り添う……など、前例のない課題に取り組んでいます。

そんな教員の姿を見た学生たちも積極的に活動に参加し、飛躍的な成長を遂げています。「何のために活動するのか」というミッションを理解した上で、持っている能力を十分に発揮しています。「気働き」が身についたのもうれしい限りです。

本学は今後も、地域社会を支える人材を育成する大学を目指します。目立たなくても、本当に大事なことをやる。そこに価値を見いだす人材です。学生一人ひとりとの対話を重視した少人数教育を行っておりますが、学生たちの常識にとらわれない発想の豊かさや柔軟さは、私たち教員に新鮮な刺激を与えてくれます。

学問の裏にある「人」を見いだす対面の授業は、研究所にない大学の良さです。まさに研究と教育は大学の両輪、それが本学の姿です。

（専門は比較栄養生理学）

吉原　章　理工学部長

東北再生の一員に

「ものづくり」と「自然」。理工学部の基本は、この二つの〝心〟を学ぶところにあります。双方を学ぶことによって成果は1＋1が2以上に広がっていく、そこが理工学部の魅力です。人と人、人と自然、人と社会、あるいは企業をつなぎ、科学技術や自然科学で未来を切り開く人間が生まれるのです。

理工学部は4月に食環境学科と生物科学科の2学科を新設しました。従来の機械工学科、情報電子工学科に加え、充実の4学科となりました。

理学と工学の目で「食」と「環境」を学ぶ前者と、多様性に富む生物の謎や営みを、科学で切り込むことで生物の保全、周りとの共生を追究する後者。特に生物科学科は生物科学を真正面から学ぶ、東北の私大では唯一の場所です。4学科いずれも演習、実験、実習を重視し、それぞれが独立しながら有機的に結びつきを持っています。

私の研究室の学生の中には、自然現象の基礎を学び、物理の研究の上に、昆虫や琥珀の研究もする好奇心旺盛な学生がいます。学部では小さな世界に閉じこもることなく、積極的に前に進む道を用意しています。

三陸海岸最南端の石巻にある本学の立地は、川、海、山という豊かな自然に囲まれており、理工学部は教員一人に対して学生4人という、お互いの〝顔〟が見える少人数教育を実践しています。そして、粒よりで個性あふれる教員がそろっていると自負しています。

2011年の東日本大震災を体験した私たちは「ものづくり」の根本を問い直し、人、自然、社会の復旧の過程にどのようにかかわり、いかに地域に貢献していくかが問われています。石巻専修大学に学ぶことは、東北の再生の一員となる意味もあるのです。

（専門は物性物理学）

佐々木万亀夫　経営学部長

地域の活性化担う

経営学部は来年度から、現行の4コース制が5コース制に変わります。「マネジメント」「ビジネス会計」「情報システム」（情報ビジネスを改称）に加え、新たに「まちづくり観光」と「ビジネス開発」が誕生し、まちづくりや商品開発、起業といった地域の活性化を担う人材を育成します。

いまや石巻市飯野川商店街の名物となったサバだしラーメンは、本学の石原慎士教授（地域経営論、地域産業論）が開発を進めました。私も食べたことがありますが、後味が良く本当においしい。

石原教授は、東日本大震災で被災した石巻の水産加工会社と八戸市（青森県）の業者をつなぎ委託生産のルートをつくるなど、地域のために頑張っています。まさにビジネス開発そのもので、そうした活動に即したコースで本学の存在感を打ち出せればと期待しています。

観光は産業の大きな柱です。石巻を訪れる意味や目的が震災前より幅広く多様な中で、まちづくり観光コースでは学生がツアーのメニューを企画し、観光客を案内する機会も出てくるでしょう。

5コース共通の選択必修科目として1年次後期にボランティアを、ビジネス開発コースではさらに2年次の選択必修科目にフィールドワークを取り入れます。学生を積極的に社会に出し、現場で問題に直面してもらう。そして解決法を模索する。結果として地域に貢献する解決策を発信していきたいと思っています。

学生会や大学祭実行委員会の学生が石巻のお祭りやイベントに率先して参加していますが、非常に評判が良く、実際生き生きとしています。

現場で力を発揮する能力をさらに伸ばすために、座学だけでなく、実体験を積みながら学ぶ場はきっとプラスに働くはずです。

（専門は情報処理）

山崎省一　人間学部長

現場の体験を重視

人間学部は4月に第1期生を迎えました。学生は予想以上に元気があり積極的で、半数が女子です。理工学部と経営学部は女子が約10％ですから。子どもとふれ合い、人間教育学科は1年次の後期から現場に行きます。子どもとふれ合い、学先として大いに期待に応えたいと思います。

人間学部は実技や演習が多く、体験を重視します。

大学で講義を聞き、現実と講義がどう違うのか擦り合わせる。

頭の中のイメージと現実が違うのは当然で、自分に先生の素質があるのかないのか、早い段階でわかります。

素質がなければ違う道を考えればいい。やっぱり先生になりたいのであれば、少しずつ直していく。

体験しないと現実はわかりません。何人かの学生には早速5月下旬に特別支援学校の運動会を手伝ってもらいました。

人間文化学科は2年次からインターンシップに近い形の実習を行います。やりたいことを自分で企画して形にすることが目標で、公共施設や祭り、商工会議所、復興にかかわっているNPO法人などで運営のノウハウを学びます。

私たちを幸せにするのはお金でも物でもない、文化です。組織に出かけていくだけじゃなく、家庭の文化でも地域の食文化でも、映画を題材にしてもいい。身の回りの文化に目を向けて掘り下げることも大切です。

石巻で活躍できる人はどこへ行っても活躍できると確信しています。あれだけの地震や津波を経験し、避難所で生活した経験を持つ本学の学生は、何が大事かわかる。減災や防災の面で役に立てるはずですし、災害に限らず「安心・安全」には何が必要か理解しているからです。

違う価値観を認め合い、つなげ、コミュニティーをまとめていける人間を育てます。

（専門はスポーツ生理学）